

# わかくわ

校長あいさつ



校長 橋本 典子

「コロナになんて負けなぞー」  
「やむじや、しんせうじ」  
「ついならう」

今年も梅雨の時期を迎え、雨の心配や夏の暑さの心配をする時期となりました。今年は2月の終わりのころから続く「コロナ禍」への対応により、四月当初の入学式・始業式は実施できたものの、五月二十五日に学校が再開するまで、長い臨時休業が続きました。登校日や希望者の登校を経て、子どもたちが皆元気で登校、あるいは訪問学習ができるようになり、臨時休業期間中の保護者の皆さまや放デイ等の関係の皆さまには、臨時休業の趣旨をご理解いただき感染予防にご対応いただいたこと本当にありがとうございます。教職員も在宅勤務を行うなどにより勤務削減が行われた時期もありましたが、子どもたちが登校して

くる日のために感染予防対策の検討や授業の準備、研修などを行いながら乗り切ってきました。合言葉は「コロナになんて負けなぞー」です。

この感染症にはまだわからないことがたくさんあり、まだ予防接種や治療薬がない中、県をまたぐ移動の自粛解除や経済活動の再開などにより第二波、第三波への不安も続きますが、いつそのような状態になっても、学校には感染を「持ち込まない」、学校では感染を「拡げない」ために、すでにお知らせしています。「感染予防対策ガイドライン」に基づき必要な対応を徹底してまいります。ごつか保護者、関係の皆さまにおかれましても、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年度、高知若草特別支援学校では、本校・分校四校共通の取組として、「学びをつなぐ学校づくり」という基本方針に基づき、新学習指導要領を踏まえて教科学習や自立活動の指導のさらなる充実と「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善、社会とのかわりや卒業後の生活も視野に入れた文化・芸術やスポーツの活動の振興、教職員が

児童生徒に向き合う時間を確保し一人一人の力を生かせる学校づくりなどに重点をおいて取組を進めています。四つの重点項目については、校長室だよりNo.2(五月二十九日発行)にも掲載していますのでご覧ください。

これから学習しようとしていることが、これまで以上に学習してきたこととつながっているか、次の学年、次の学部、そして卒業後につながる学習になっているか。教職員がそれぞれの役割を果たしそれらがつながるチーム若草として指導、支援が行っているか。同じ肢体不自由特別支援学校である本校と三つの分校が、互いに交流し高め合えるようにつながっているか。保護者や教職員、関係機関が互いにつながり、子どもたちの未来を考えているか・・・そんないろいろな観点から、高知若草特別支援学校の取組を「つなぐ」というキーワードで整理し、具体的な取組をつないでいこうとしています。

そして、感染症対策の徹底が求められている今こそ、全教職員が一丸となって、「やさしく」「いいねい」「しっかりと」という指導理念を大

切にし、高知若草特別支援学校でよかったといえる学校にしていきたいと思っています。

子どもたちが元気で笑顔いっぱい  
の学校となるよう、保護者、関係の皆さまには、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



学校では授業以外にも、学校を運営するのに必要な業務を教職員が分担して受け持っています。それぞれが役割を果たし、それらがつながるように取り組んでいます。ここからは、各分掌業務について紹介します。

## 一、各学部より

- 小学部主事 堀 ゆかり
- 中等部主事 河野 美知
- 中等部副主事 山本 洋平

令和二年度は七月時点で、小学部十九名、中学部五名、高等部二十五名で学習しています。今年度は中学部生徒が少ないため、授業によって

は中高等部が合同で学習を行うなど、学部運営を工夫しています。

今年度も、一人一人の児童・生徒の目標達成に向けて、授業だけでなく学校生活全体を学習の場とらえ、丁寧な指導を行うように担任・一同が連携・協力して学習を積み重ねていきます。  
各学部の目標をお伝えします。

**小学部**

○日々の学習や社会体験的な学習を通して、生活するための基礎的な力をつける。

○身近な人と関わり、やりとりする力や表現する力、互いを思いやる気持ちを育てる。

○学ぶ楽しさを知り、進んで学ぶようになる意欲を高め、考える力、学ぶ力を育てる。

**中学部**

○社会体験的学習を通して、日々の学習で身に付けた力を定着、活用できるようにする。

○互いを思いやる気持ちを高めるとともに、自分の思いや要求を様々な方法で他者に伝える力を育てる。

○自己有能感を高め、自ら進んで学習する意欲や態度を育てる。

**高等部**

○個々の社会生活に必要な経験及び知識・技能の習得を図る。

○互いを尊重するとともに、自ら思考、判断し、その考えや思いを他者に伝える力を高める。  
○進路実現に向け、自ら進んで学習する力を高める。

**一、寄宿舎より**

寮務主任 中島伸一郎

本年度の寄宿舎は新入舎生が三名、継続入舎生が八名、計十一名の舎生(小学部一名、中学部二名、高等部八名)で新年度を迎えました。子どもたちは喜びと期待感だけでなく不安もいっぱいあると思いますが、指導員十一名全員で一人一人の不安を受け止め、楽しい寄宿舎、温かい寄宿舎、舎生が居たくなるような寄宿舎をめざし、支援していきたいと思います。  
寄宿舎の目標をお伝えします。  
○自立的な生活ができるよう基本的な生活習慣を確立させる。

○人との関わりを楽しみ、仲間意識を育てることにより、共同、協力の姿勢を育てる。

○自分の将来をイメージし、主体的な寄宿舎生活を送れる力を付ける。

**三、教務部より**

教務部長 森 光平

教務部の業務のうち、中心となるものは、「教育課程の編成及び適正な実施と改善」です。

教育課程とは、耳慣れない言葉ですが、児童生徒の皆さんが、学校教育目標を達成するために、どんな内容を、何時間かけて学習するのか等を、総合的に組織した学校の教育計画のことです。

児童生徒一人一人の教育課程は、五月末に保護者の皆さまにお伝えした「①個別の指導計画(通知表)」 「②年間指導計画」に示しています。  
①では、「この教科では、こんな力を付けることを目指し(目標・内容)、こんな手立てで、週に何時間かけて指導します。指導する時には、教科別に指導したり(国、算・数など)、

各教科等を合わせて指導したり(テーマ、チャレンジタイム、ライフなど)します」ということを表したものです。また②の、「年間指導計画」とその中に含まれる短い期間での「単元計画」を充実させることも今年度は進める予定です。



さて、①②の様式が昨年度と変わりました。各教科の学習の目標と内容、評価と改善の流れが分かりやすくなるよう、若草四校で統一した様式を使っています。

その中に(知技)(思判表)(学人・主学)という表記があったと思いますが、それは新しい学習指導要領に示されている児童生徒に付けたい力(目標・内容)とそれぞれに対応した観点別学習状況(評価の観点)を示しています。

①②に沿って指導し、評価・改善し、さらに適切な教育計画となるように、教務部が中心となり、学校全体で教育課程の改善に取り組んでいます。  
保護者の皆さまには、計画や評価

をお伝えし、「意見を改善に生かしていきますので、懇談及び参観日にご参加いただけますようお願いいたします。次回の予定は、九月二十八日から十月二日の間です。(七月三日にお届けした行事予定表をご確認ください。)なお、懇談及び参観日は、設定日以外でも可能ですので、担任にご相談ください。」



教務部の他の業務も教育課程と関連した内容で、「教科書に関する事務」、「学校図書室の図書購入や管理」、「行事予定の調整」、「スクールバスに関する業務」などを担当しています。

#### 四、研究部より

研究部長 笹方 真佑

研究部では、昨年度までの研究成果を引き継ぎ、今年度からは新たな三か年での研究計画を立てています。研究の柱を「授業改善から教育課程の改善・充実」とし、校内の教務部とも連携して、日々の授業の中での学習評価を実際によりよい教

育課程の編成につなげられるよう、進めていきます。

具体的には、学習指導要領に示された各教科の学習内容を子どもたちの力と照らし合わせて、子どもたちそれぞれの実態に合った確かな学びができるように、またその学びが将来の子どもたちの生活につながっていくように、学びを次の学年や将来につないでいくことを重点的に研究します。

そのためには、私達教員の力量向上が求められます。子どもたちの力を丁寧に正確に読み解く力、子どもたちの力に合わせて、学習指導要領に示された学習内容を具体化した、生活と結び付けたり、発展させたり、組み合わせたりする力、さらに、子どもたちにどんな力が付いたのか、付いた力がどのような場面で活かされるのか等、学習評価に関する力も学び合っていきたいと考えています。これらの授業づくり・授業改善に必要な力を、教員全員で研修や公開授業・研究協議を行いながら高めていけるよう、三年間の土台となる今年一年、教員全員で頑張っていきます。

#### 五、自立活動部より

自立活動部長 長尾 あゆみ

自立活動部では、学校理学療法士や外部専門家の先生方との連携を行いながら、各クラスの担任と協力し、児童生徒の皆さんによりよい自立活動の支援が行えるよう取り組んでいます。

今年度一学期には、学校経営計画の重点取組となっている、「自立活動の指導の充実」の一つとして、「自立活動指導目標内容設定シート」を活用し、教員一人一人が自立活動に関する基礎的な理解を深め、児童生徒の実態により即した指導目標、指導内容を設定する研修を全部で十回行う予定になっており、七月中には八回分が終了します。夏休み期間中には、講師の先生をお呼びしての研修も二日間行い、二学期以降は、そうして導き出された自立活動の目標や内容に沿って、より充実した自立活動の学習を学校全体で進めていきます。



八月から夏休みに入ります。暑さ対策などの体調管理と合わせて、車

いすの点検や姿勢の管理など、保護者の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

#### 六、児童生徒部より

児童生徒部長 山本 幸彦

児童生徒部では、児童生徒会に関わることで、保健体育関係に関わることの二つの分野に取り組んでいます。

児童生徒会に関わることで全校集会や生徒総会、生徒会役員選挙、あいさつ運動、放送活動等の活動があります。さらに、学校生活アンケートを実施し、児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう取り組んでいます。一学期は新型コロナウイルス感染症予防のため、残念ながら児童生徒が密集する集会やあいさつ運動は見送られました。が、ノー二密で実施できる活動を生徒会執行部役員会にて生徒たちと一緒に検討しているところです。

また、隔年で行われる体育祭や学園祭の実施計画も行っていきます。本年度は体育祭実施の年度となりますが、多数人が一カ所に密集し、密接する従来の体育祭ではなく、ノー

三密で実施できる行事へと目的や内容等を変更して計画中です。

保健体育関係では、体育祭の他に、高知県障害者スポーツ大会やジュニアポッチャ大会等への参加に力を入れるなど、生涯教育につながるスポーツ活動推進も行っています。コロナ関連で中止となる大会も多々ありますが、感染状況が落ち着き、各種のスポーツ大会が開催される折には、ぜひ、これまでの分を取り戻すべく奮ってご参加をお願いします。ご協力をよろしくお願ひします。



七、学校・地域安全対策部より

学校・地域安全対策部長 松木 知美

学校・地域安全対策部は、防火・防災訓練や安全教育の計画、地域と学校との連携、校内での事故等を減らす注意喚起等を行っていく部署です。先生方や児童生徒の皆さん、保護者の皆さまや地域の皆さまと

皆さまな安全に関する情報を共有し、助け合い、より良い生活につ

ながる情報を発信し、実践していきたいと考えています。



今年度は、十月八日木曜日の地震避難訓練に合わせて、起震車が来校する予定になっています。リフト付きの起震車で、震度5程度までは支援者がいれば車いす(背の高い介助用車いすは除く)でも安全に体験ができるそうです。後口保護者宛に体験を希望するかどうか確認させて頂くお手紙をお送りします。お子様と保護者の方が一緒に体験したり、保護者の方や教員が乗った震度7の起震車を見学してもらったりできればいいなと考えています。できるだけ密集を避け、手指の消毒をしつつ実施する予定です。ご参加をご検討ください。今後ともさまざまな活動についてご協力いただけたらと思います。

八、総務部より

総務部長 宮地 美保

総務部では、入学式や卒業式等の

式典の運営とPTA活動の推進に取り組んでいます。

式典の運営に関しては、児童生徒の皆さんが相互に祝い喜び合い、大切な節目にふさわしい式典になるよう取り組んでいます。



PTA活動の推進に関しては、保護者の方々の連携を図りながら、保護者の方同士とのつながりをお手伝いしたり、皆様が見意を出しやすい仕組みを整えたりしたいと考えています。今年度は新型コロナウイルス感染症の心配もありますが、PTA活動は例年通りの計画を立て、状況に応じた対応していくことになりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。役員の方が中心になって、年三回の見読考問の発行や若草懇親会、ランチ会や研修会、物販売等も計画して下さっていますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

九、相談支援室より

相談支援室長 吉村 栄里香

今年度、相談支援室では、二つのことに取り組めます。

一つは、校内の先生方の専門性を生かしながら地域支援を実施することで、校内外における「インクルーシブ教育システム」の理解啓発を図るとともに、支援・指導の充実を図ります。

もう一つは、校内における授業づくりに関する協議に参加させていただくことで、特別支援学校における実践と地域における支援・指導とをつないでいきます。

この二つの取組を通して、本校の特別支援教育に関するセンター的機能の充実を目指します。

十、看護師さん、学習支援員さんお世話になっていきます。

今年度学校では、八名の看護師さんに、医療的ケアの実施や全校児童生徒の健康管理などをしていただいています。また、七名の学習支援員さんには、トイレの支援だけでなく、学習中の支援もお世話になっていきます。どうぞよろしくお願ひします。